

会 議 録

会議の名称	第2回吉川美南駅前公共施設整備検討委員会	
開催日時	令和3年3月29日(月)	午前10時00分から 午前11時55分まで
開催場所	吉川市役所 204会議室	
出席委員(者)氏名	藏田幸三、高田明充、小松弥生、石井亮英、楊西希、金田桂子、高木淳、山野隆子	
欠席委員(者)氏名		
担当課職員職氏名	政策室長 野尻宗一 政策室副室長兼政策室主幹 荒川泰弘 政策室企画担当副主幹 油川誠 政策室企画担当主査 相川美佐子 政策室企画担当主任 林希 都市整備部吉川美南駅周辺地域整備課吉川美南駅周辺地域整備担当主査 田口裕章 教育委員会事務局教育部生涯学習課生涯学習担当副主幹 程田浩司	
会議次第と会議の公開又は非公開の別	[次第] 1 開会 2 あいさつ 3 議事 (1) 関連情報について (2) 施設のコンセプトについて (3) 導入機能について 4 閉会 [公開・非公開の別] 公開	
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)		
傍聴者の数	4名	
会議資料の名称	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2回吉川美南駅前公共施設整備検討委員会資料 ・ 資料1 地区計画資料 ・ 資料2 市民ニーズ整理 ・ 資料3 吉川市周辺市町のホール施設の施設概要 ・ 資料4 図書館、ホール事例 ・ 追加資料 	
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録	
会議録確認指定者	金田桂子委員、高田明充委員	
その他の必要事項		

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>(蔵田委員長よりあいさつ)</p> <p>3 議事</p> <p>(小松委員より自己紹介)</p>
委員長	<p>議事録署名人を名簿順で金田委員と高田副委員長にお願いする。</p> <p>(異議なし)</p>
	<p>(1) 関連情報について</p>
事務局	<p>(資料に基づき説明)</p>
委員	<p>都市計画マスタープランにおいて、事業予定地は「複合多機能ゾーン」で「大型店舗等の新たな商業地の形成」と記載があるが、市長キャラバンでは「近隣市町村に大型商業施設が立地しているので、本事業予定地には不要」との市民意見が多くある。齟齬はないか。</p>
事務局	<p>平成24年の都市計画マスタープラン策定時点の方向性であり、吉川美南駅の西口と東口の両方を含めた方向性である。その後、市長キャラバンを経て、土地区画整理事業のコンセプトでは「大型」という表現は用いていない。</p>
	<p>(2) 施設のコンセプトについて</p>
事務局	<p>(資料に基づき説明)</p>
委員	<p>市民ニーズで、文化会館的な大きなものではなく小規模なものでよいという意見は多々あるが、幼稚園などの発表会は隣の大きな施設を利用している。市内にある2つの施設は音響が悪いことや狭いため、現状ではあまり利用されていない。子どもとその家族が利用するのであれば、500人規模では狭い。音響を良い施設があれば良いということであれば、既存施設の設備を整えればよいのではないか。これ以上中途半端な施設を増やしても意味がないと思われる。</p>
事務局	<p>吉川市民の近隣市町の施設利用の実績をみると、例えば三郷市の文化会館は平成30年度に9件、令和元年度に16件の利用があり、1,000人規模の施設もある程度の需要があることは把握している。一方で、おあしすや中央公民館の利用状況を見ると、中央公民館では利用の無い日が多くなっており、音響をよくするといった利用者数を増やしていく取組みの検討も必要と考えている。利用者数としては、10人以上から200人未満の利用が多くなっている。1,000人規模の施設は、運営面で土日は公演などの事業を行う必要が出てくるため、市民は使えない。市民の利用にとっては、どのぐらいの規模が良いのかを検討する必要がある。</p>

委員	民間事業者の意見で「規模縮小の検討が必要」とあるが、どこまで必要なか知りたい。また、さくらタウンのように特殊な事業者とのつながりが必要とあるが、現状、想定される事業者はあるのか。
事務局	民間事業者からの意見や提案として出されたものであるが、現時点で市として繋がりのある事業者はいない。来年度行う市場調査などで関心のある事業者があれば相談していきたい。また、規模の縮小については、具体的な規模を示して議論したわけではないが、文化関連施設を民間事業として行うのであれば、出来るだけ規模が小さい方が良いという意見であった。
委員長	現状としては難しいということだが、良いコンセプトであれば、事業者が興味を持つ可能性はある。その際は、然るべき選定の手続きの中で一緒に進めていくこともできる。公民連携の視点としてそういったことを進めなければ、新たな施設を整備して財政的に維持していくことは難しいので、良いコンセプトを皆様とつくっていききたい。
委員	民間事業者にどのタイミングでどのようにアプローチをしていくのか
事務局	最終的には、基本計画を策定後の事業者公募を行うときとなるが、その前の段階においても、事業者へのヒアリング等で文化関連事業に興味ある事業者があれば相談していきたい。
委員	1,000 席規模のホールが欲しいという意見があるが、実質的に不便なのかといった、望まれている理由を知りたい。1,000 席でもホールは採算確保が難しい。周辺に多くあると全体が沈没してしまうようなことも考えられる。また、音響設備が悪いといわれているが、プロの意見なのか市民の意見なのかどちらなのか。小規模のホールであれば音楽ではなく演劇のイメージだが、市として方向性があるのか。
委員	大規模ホールが必要な理由としては、幼稚園の先生が近隣自治体で毎年予約を取る際に、「なぜ毎年来るのか。吉川市民なんだから吉川の施設を使えばいいのではないか」と言われて悔しかったという話が強く印象に残っていたため、この機会に意見として出させていただいた。 また、既存の施設については、反響板が設置されていなかった。最近では設置されたが合唱サークルの方などから音響が悪すぎるという意見があった。そうであれば、既存施設の設備を良くすることで、既存施設で小規模の音響の良い施設として使用できるのではないかと考えている。
委員	中央公民館の将来のあり方を考えることも必要だと考えている。大規模修繕の兼ね合いもあり、音響設備の整備を考えるのであれば改築して大きなものにするという考え方もある。ただし、本事業は駅前という立地条件もある。新たな整備を行うのであれば、中央公民館の経緯も踏まえ、音響設備などに追加でお金を掛けるのではなく、初めから考慮してはいかかという考えである。 また、「市民の誇りとなるシンボル施設」ということに関しては、コーラスや吹奏楽をやっている方からは、「松伏のエローラはいい。なぜ吉川にはないのか」という声も聴く。小中学校の子供達が吉川の素晴らしい施設で出来るんだという想いや喜びを感じられるようにしたい。 ソフト的な事業で差別化を図ることが必要という民間事業者の意見があるが、その通りだと考えている。ハコモノに頼らず、例えば高齢者が散歩ができる森の中にいるような、人が集える場所づくりも検討いただきたい。

委員	<p>吉川市は文化の意識が低いという調査結果をみたことがあり、市の演劇が始まったということもそこに関連性がある。そのような中でオペラのチャリティコンサートやソプラノ歌手の公演があったが、「吉川のこんな施設で歌ってもらうのは恥ずかしい」という話も聞いたことがある。プロが素晴らしいと言ってくれる施設があれば、そういう方々が来てくれるのではと思う。一方で、そのような施設を美南駅前に造ったら、おあしすと中央公民館はどうするのかとも思う。</p>
委員	<p>以前、自衛隊の吹奏楽の演奏を中央公民館で行ったが、設備の不足を指摘され、関係者が残念な思いをされたと聞いたことがある。</p>
委員	<p>シンボルとなる施設とするためには、ソフト対策が大事である。「デジタルで新たな魅力」ということであれば、例えば演劇でも歌でも特殊な仕掛けをして、市としてオンラインで上映できるなど、吉川市の文化芸術としていつも面白いことを行っているということが伝われば、市民の誇りに生まれる。民間事業者については、発信力が高い企業であれば望ましいと思う。</p>
委員	<p>500 席程度が小規模というイメージなのか。</p>
事務局	<p>小規模と大規模の判断は難しいが、利用分析では 300 人以上の利用はかなり少ない。白岡市の施設では、100～150 人規模の 2 つのホールをつなげられるようにしている。</p>
委員	<p>300 席程度で音響施設を整備してプロも使える施設とした場合、興行としては採算が取れず、作っても意味がないのではないかと。その場合、市民利用は増えるが、赤字になると思うので、小規模のものを作ったときの事業性を考える必要があるのではないかと。</p>
事務局	<p>興行的に見た分析は必要と考えているが、公共施設となると採算性だけでなく、文化芸術に触れ合っていただくといった市民サービスという観点も必要であり、ある程度の負担も覚悟して検討しなければならない。</p>
委員長	<p>文化施設を民間事業として、ビジネスとして採算性を取って行うのはかなり難しい。流行っている施設、面白い施設として市民や市外の人を呼び寄せる魅力的な集客装置としての文化施設ができれば、施設単体では収益性はないが、人が集まり、交流が生まれることで、飲食やサービス、広告といった収益機会が出てくるので、結果として相乗りする民間企業が出てくるという構図になればよい。そのためには、誰に向けて、どのような施設をつくるのが重要であり、例えば、平日や休日の時間帯ごとの利用者を細分化してイメージすれば、適正なボリュームを考えることができるのではないかと。確実な利用者数を積み上げる方法もある。その中で、利用者が楽しめる「今風の」又は「これからの」コンテンツを考えればよい。</p> <p>ただし、規模感や立地条件を見ると、いきなり市外のマーケットを狙うのは無謀とも思えるので、美南駅周辺の徒歩圏・自転車圏の新しいまちの市民が新たな文化を造りあげていく形を考えながら、IT や体験・教育といったイベントもいいのではないかと。IT, Society5.0, DX という考えを絡めてコンセプトができれば、美南に住む家族に喜ばれる施設になるのではないかと。そして、結果として隣町の同様の世帯層も呼び込める。他の商業施設にないところを駅前で「公共」が絡むことで創ることができれば、可能性が見えてくるのではないかと。そういう意味では「子供」「I</p>

	<p>T」「文化」といったところを掛け合わせて特化したものを作れば、施設の設定や見え方も検討できるのではないかな。</p> <p>また、オンライン機能やコンテンツを揃えていけば、規模感もそれほど膨らませずに考えられる。</p>
委員	<p>文化連盟の活動として毎年文化芸術祭を行っているが、400人程度の会員となっているのが現状。また、文化芸術祭を行っても加盟団体の関係者以外の参加が少ないのが課題である。もし美南駅前で行うことになるなら、会員以外の参加も期待できるため、活用したい思いがある。</p>
委員長	<p>文科省が地域文化倶楽部推進事業を始めているが、文化連盟の知見をいただきながら、ITを加えて、子供達や家族の参加の中で活動していくことができれば、担い手なども育ってくるのではないかな。</p>
	<p>(3) 導入機能について</p>
事務局	<p>(資料に基づき説明)</p>
委員	<p>図書館とホールについては、既定路線ということでよいのか。</p>
事務局	<p>市民意見で図書館の要望が多い。また、当初から文化施設を考える際にホールが中心となるものと事務局では考えてきたところではあるが、必要性についてもご意見をいただきたい。事務局としては、ホールと図書館関連が軸になるのではと考えている。</p>
委員	<p>立地として子ども向けの施設が良いとは思いますが、今後のことを考えると札幌市の事例のように情報センター的なところも望まれる。いろいろなものがあるというのではなく、ネットなどで調べ方を教えてくれる場所のように機能が重要となってくると考えるが、運営する人材が必要である。</p> <p>ホールに関しては、可見市文化センターは財団で運営しているが、館長が有名な方で、その方の力は大きい。松本市のまつもと市民芸術館の館長も全国的に知名度にある方である。ハコモノも大事だが、運営する人が重要である。特にホールの方は、小規模であるのであれば、スター的な立場の方が芸術監督などで運営に携われれば集客は見込まれる。席数が少ないとそのような方は芸術監督などを受けていただけないと思うので、兼任してもらうようなことであれば可能性がある。</p>
委員	<p>劇場やホール以外であれば何が必要かと考えると、美術館や科学館、博物館という意見も聞いたことがあるが、運営が難しいだろう。ハコモノ以外だったら、もしくは併合するのだったらと考えると、どんなものが考えられるのか。</p>
委員	<p>美術館、博物館や科学館となると収蔵品の確保が必要なので難しいが、ギャラリーであれば可能性はある。ホールは、催し物の時だけ人が集まって、みんなで話すことが無い。外にホワイエがあってワインが飲めて子供たちも集まるような場所があれば広がってくる。また、ギャラリーであれば、一日中開放されていて誰でも入れるとか、公園を活用するとかもできるのではないかな。いずれにしても運営の仕方ではないかな。</p>
委員	<p>ギャラリーとして著名な美術とかは難しい。市内で陶芸や俳句、華道などをやっている方やいろいろなものを制作しているお子さんもいるので、そのようなものを展示することが理想ではある。</p>

委員	既存の施設では、展示をしてもわざわざ見に来ることとなる。駅前ということでお客様も多くなるので、立地状況を生かした施設としてほしい。また、自動車社会でもあるので、まちづくりとして自動車との共存は必要である。西口から東口へ渡る跨線橋は不便と思うので、整備なども検討してほしい。
事務局	跨線橋の整備は難しい状況ではあるが、事業者からもアクセスについて検討すべきという意見があった。
委員	子育て支援施設は、他の事業で整備するのか。
事務局	子育て支援施設としては、保育所は民間施設としての整備を想定している。その他の施設で必要なものがあれば、改めて市からご報告し、ご意見を伺いたい。
委員	企業主導型保育所や一時預かりなどの導入も検討していただきたい。
委員長	子育てや仕事をしながら文化活動を行いたい方などを想定してコンセプトを検討してもいい。それにより施設の価値が向上するのではないか。縦割りではなく、掛け合わせて考えることで、ここにしかないものを創ることができるのではないか。また、施設としてはシンプルで可変性のある造りで、面白いものができればよい。
委員	図書館について、2011年1月現在の資料では全国の電子図書館は143施設ある。これからも増えると思うので、電子書籍を活用できる施設とするとういのではないか。その場合、高齢者の方にも楽しんでいただけるような工夫が必要である。
委員	美南駅の西口の自治会は、自治会館が無く、地区公民館を利用している。今後は、自治会館は維持費を考へても整備することは無いと思うが、公共施設の一部を、柔軟性のある会議室として自治会が利用できるようなスペースも考へてほしい。
委員長	西口の市民を今回の施設のお客様の半分として喜んできてもらえるようなものを考へれば、より確実性が出るのではないか。
委員	文化関連以外の機能については、全て整備されると楽しいまちになると思う。図書館やホールなどの周りを支える施設に目新しいものがあれば、人に来ていただける。また、外とハコモノをつなぐところが重要と考へる。駅からハコモノそれから公園や商業施設に繋がる場所の屋外に楽しみがあって、人が集まれるようなものが望ましい。繋がりを生むスペースとして重要である。
委員長	国交省では地域再生推進法人という制度で、駅前広場や道路など行政ではなく民間団体に任せて、イベントなどを行っていくような取組を推進しているのだから、活用することも考へられる。駅からの接続を考へる中でオープンスペースを管理する対象ではなく活用する場所とすることが重要であり、施設整備だけでなく、まちづくりにも乗り出すような民間事業者を誘致できるとよい。
委員	市民を巻き込む仕掛けが必要であり、自分が関わっている施設といった想いも生まれる。市が一定の方向性を示した上で、自治会や文化連盟の

<p>事務局</p> <p>委員長</p> <p>事務局</p> <p>副委員長</p>	<p>方、吉川美南高校などとワークショップのような取り組みを行い、市民を巻き込んでいくのもよいのではないかと考えている。</p> <p>市民交流センターおあしすを整備する際も、地域の方と積み上げていった経緯がある。立ち上げのときやその後も含めて市民の方の意見を伺いながら運営していくことも検討できればと考えている。</p> <p>吉川市としてのメリットは、利用者の顔が見えるところが大きい。「流行るかもしれない」で創る必要はなく、「有ればいいな」ではなく「何回も通いたい」のは何かを伺える。地域にキーになる方がいることは施設が永く生き残れるための絶対条件でもある。具体的に新しい施設をどう使うのかということは、地区住民の意見を聞くことが一番である。スケジュール感もあり、大規模なことはできないが、コミュニケーションが取れる何らかの方法を検討していただきたい。</p> <p>4 閉会</p> <p>次回は5月頃の開催を予定している。</p> <p>(高田副委員長よりあいさつ)</p>
<p>以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。</p> <p>令和3年4月22日</p> <p>署名委員 金田 桂子 署名委員 高田 明充</p>	